

第37回日本口腔・咽頭科学会総会ならびに学術講演会

2024年9月5日（木）・6日（金）和歌山城ホール（和歌山市）

スイーツセミナー1

日時 2024年 9月5日（木） 15:50-16:50

会場 第1会場

共催 株式会社アダチ / スミス・アンド・ネフュー株式会社



「Coblation Intracapsular tonsillectomy」

司会：市村 恵一先生

自治医科大学名誉教授,東京みみはなのどサージクリニック



1. Coblation Intracapsular tonsillectomy (CIT) : technical tips and pitfalls

原 浩貴先生

川崎医科大学耳鼻咽喉・頭頸部外科学



2. 当科におけるコブレーター被膜内扁桃摘出術の経験

野田 昌生先生, 伊藤 真人先生

自治医科大学小児耳鼻咽喉科



＋Coblation Intracapsular tonsillectomy (CIT) ：technical tips and pitfalls

演者：川崎医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科学

原 浩貴 先生

小児の健やかな発育・発達を支えていくことは耳鼻咽喉科頭頸部外科医の大きな役割の1つである。そして小児の健やかな発育・発達のためには質量ともに十分で良質な睡眠をとることが不可欠である。残念ながら本邦における睡眠衛生は世界的にみても不良であり、2023年末には厚生労働省から健康づくりのための睡眠ガイドが出され、睡眠衛生の重要性を示すとともに、睡眠の障害をきたす疾病がある場合には受診の上、治療を行うことが示された。

小児においても、生活スタイルや睡眠習慣の改善だけでは対処できないさまざまな睡眠障害がみられる。その代表が閉塞性睡眠時無呼吸症OSAである。小児OSAは有病率も高く、適切な治療が行われない場合、身体発育から認知機能までさまざまな影響を及ぼす事が知られている。小児OSA に対する治療の中で、口蓋扁桃摘出術・アデノイド切除術はいまだ重要な位置にある。これらの術式は従来coldメスを用いて行われてきたが、近年の医用工学の進歩により各種のパワーデバイスを用いた手術が主流となりつつある。さらに、幼児・小児における扁桃手術の手術術式としては、欧米を中心にパワーデバイスのメリットを生かした被膜内摘出術が実施されるようになってきている。この手術のコンセプトは前口蓋弓から飛び出した部分だけを切除・焼灼する狭義の口蓋扁桃切除 (class1) ではなく、扁桃被膜直上まで90%程度の扁桃実質を切除する方法(Class2)であり、咽頭筋層の損傷がなく、術後の疼痛からの回復・通常の食生活への復帰が有意に早期であり、出血頻度の低減にもつながる利点が見られている。我々は2021年2月よりコブレーターを用いた被膜内口蓋扁桃摘出Coblation Intracapsular tonsillectomy (CIT) を実施しているが、従来法と比較して、術後疼痛、鎮痛剤の使用量、術後の経口摂取量などで良好な結果が得られている。

本セミナーでは、technical tips and pitfallsとして、我々が行っている手術の実際と注意点を中心に講演する。

＋当科におけるコブレーター被膜内扁桃摘出術の経験

演者：自治医科大学 小児耳鼻咽喉科

野田 昌生 先生

慢性扁桃炎や睡眠時無呼吸症候群などに対する一般的な治療法として扁桃摘出術がなされてきた。これまで長い歴史を持つ従来の手術法の他に、近年ではデバイスの開発や普及に伴った新しい術式が行われており、コブレーターもその一つである。

コブレーターは高周波を利用したバイポーラシステムで、切除プロセスにより切除組織周辺への熱損傷が少ない、低侵襲な手術を可能にする。そのため、術中や術後の出血リスクが少なく、より確実な術操作や視野確保ができるため、患者背景や疾患によってはより有効な選択肢となる。モノポーラやバイポーラなど、これまでの他のパワーデバイスと比較してコブレーターは深部への熱損傷が少なく、被膜外での扁桃摘出術において術後疼痛が少ないことは報告されてきた。一方で、コブレーター被膜内扁桃摘出術(CIT)の報告は少なく、本邦では普及していない。

当科では、小児睡眠時無呼吸症に対して、パワーデバイスを用いた被膜内扁桃摘出術 (PITA) を行っており、出血や術後疼痛の軽減について報告してきた。(Noda et al. 2023 Auris Nasus Larynx) 低年齢の患者に対する口蓋扁桃摘出術では、3歳未満の小児で呼吸困難や脱水症、後出血など合併症の発生率が高いことも報告されており、そのリスクも踏まえた上で、術後出血によるリスクが高い症例や低年齢の症例では、コブレーターを選択し、被膜内での扁桃摘出術を行っている。

機器についてはコブレーター2 サージェリー システム (スミス・アンド・ネフュー株式会社、販売代理店：アダチ) を使用しており、PROcise™ MAX Wandsを選択している。

今回、当科で行ったコブレーター被膜内扁桃摘出術の経験について症例を交えて報告する。